Hand in Hand 21 Plus

ハンド・イン・ハンド21プラス

名取市男女共同参画情報紙

プラス13号　　2015年　3月

名取市の男女共同参画社会の基本理念　**“女と男、互いに認め、ともに輝きともに創る”**

女性も男性も、お互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いながら、性別にとらわれることなくあらゆる分野でその個性と能力を十分に発揮できる社会、それが「男女共同参画社会」です。

宮城県では、企業の男女平等に対しての自主的な取り組み促進を目的として、「女性のチカラを活かす企業認証制度」を導入しています。名取市でも7社（平成26年11月1日現在）が認証されています。今回は、その中の1社（株）宮城運輸の取材を行い、総務部業務係長の高橋さんからお話をお伺いしました。

それぞれの職種で一人一人が力を発揮する　　株式会社　宮城運輸

株式会社宮城運輸（名取市高舘）は、昭和52年創業で、男性112名、女性29名の会社です。女性社長と141名の社員が協力して、運送業・倉庫業を営んでいます。業務内容は、居酒屋やファミリーレストラン等へ、材料を仕分けした上で配送するというものです。ゴールデンウィーク、お盆、お正月は特に忙しいそうです。深夜から午前中にかけてが、配送の時間帯です。男性ドライバーと共に、女性ドライバーも2名います。管理職は男性が8名、女性が社長の他に1名です。

福利厚生制度の充実と均等な職場環境

10年前は社長も含めて女性社員は3名しかいませんでした。ここ10年間で女性が増えたこともあり、女性も働きやすい職場環境を目指して、制度の充実を図っているところです。現在、産休中と育休中の女性が1名ずついます。また、これまでは男性が主だった、運行管理・危険物取扱・フォークリフト運転免許の取得を女性にも推進しており、取得者が増加しました。介護休暇等の制度がありますので、男性も取りやすい環境づくりがこれからは大切だと考えています。

仕事と育児の両立支援（ある女性社員の場合）

女性社員のAさんは入社13年程になります。最初はパートで働いていて、出産のために一度は退職しました。その後復職し、現在は正社員として働いています。復職後しばらくは幼稚園の送迎が必要だったため、午後2時までの勤務とし、子どもを幼稚園に迎えに行くという毎日でした。また、学校行事出席などのための休暇も、同僚と仕事の調整をして、気兼ねなく取ることができるので、子育てと仕事の両立ができています。

震災時の団結と他社との信頼関係の大切さ

4年前の東日本大震災の折には、食べ物が手に入らず苦労していた皆さんに、一日でも早く食べ物を届けたいとの一念で、社員一丸となり食料運送の早期再開を目指しました。社員は、自宅が片付かない中で会社に集合し、女性陣がおにぎりを握り、男性陣はそのおにぎりをほおばりながら配送に出掛けました。災害復興のためということで、物資は調達できましたが、問題は燃料でした。その燃料は、遠方の取引先から融通してもらいました。その結果、被災から数日後には営業を再開することができました。非常時こそ一人一人が力を発揮することが必要であり、また、普段からの取引先との信頼関係構築が、いかに大切かということを実感させられた出来事でした。

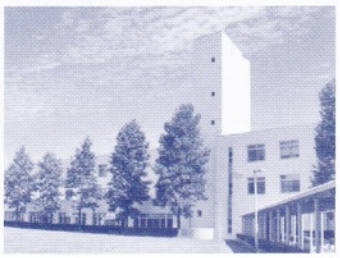
インタビューを行った部屋の壁には、社長の高田さんが会員である“みやぎレディース中央会（中小企業団体の女性部）”講演会「人生を成功させる暦の力」の案内が貼ってありました。また、高田社長は仙台商工会議所女性会の副会長として、その責任を果たしておられます。名取市内には、女性が輝く（もちろん男性も）素敵な職場があるということを、再確認しました。

女性中心の職場へ　進む人・働く人

今回は「女性中心の職場へこれから進んでいく男性」「女性中心の職場で働いている男性」をテーマに、男女共同参画の視点からインタビューを行いました。

尚絅学院大学、県立がんセンター、名取市高舘保育所、名取市保健センターの順にご紹介したいと思います。

～男性保育士を目指す～ 尚絅学院大学



【取材を受けていただいた尚絅学院大学の方々】
前田有秀さん（尚絅学院大学　子ども学科　教員）
浅野悠平さん・松木泰地さん・家子鉄平さん（尚絅学院大学　子ども学科　３年生）

●保育士を目指す男子の数や傾向など、現状についてお尋ねします。

◆前田－現状では４年生 68 名が実習を行っているうち男子学生は５名、３年生は 76 名中７名、２年生は 78 名中２名となっており、男子学生は全体の１割弱となっています。子ども学科全体では、小学校教諭を目指す学生が多く、この傾向は過去とほぼ変わりません。

●教育内容に女子学生と男子学生とで違いはあるのですか。

◆前田－指導については女子学生と同様に行っています。ただ、現場では、男性であることの「特性」が生じることもあるでしょう。例えば、保育士が男性であるがゆえに、懐いてくる子どももたしかにいます。

●学びの場で男子学生であるがゆえに、やりづらさを感じたことはありますか。

◆学生－どうしても、男子学生の数が少ないため、肩身の狭さなど少しやりづらさを感じることはあります。

●保育士を目指したいと思った一番の理由は何でしょうか。

◆学生－中学生から職場体験やボランティア活動を行ってきた中で、自分が置かれていた環境や、そこでの経験を通して志望しました。入学前に、子どもの成長を実感できたこと、そしてそこで子どもたちと共感できたことは、大いなる励みとなりました。また、その環境に違和感を感じなかったことが志望の理由です。くわえて、責任の重さを感じることができました。保育士は、人と人とのつながりを感じることができる職業だと思います。

◆学生－大学進学を目指す上で、将来の職業を考えたときに、病気で幼稚園の卒園式に出席できなかったのですが、先生が別の日に自分だけの卒園式を行ってくれたことが大きかったことです。

●今後就職した場合、待遇などで不安はありませんか。

◆学生－現実的な問題として、給料などについて不安の部分もたしかにあります。ただ、仕事そのものに対するやりがいを優先させたいと思います。

●就職後の定着率（離職率）、男女構成比はどうなっていますか。

◆前田－自治体によっては、保育士の男女比を考慮して雇用しているところもあるようです。また、私立に関して言えば、正規職員との兼ね合いなども絡み、それぞれの法人による工夫がされているのではないでしょうか。

●男性保育士ならではの活躍の場面はあるのですか。また、現場で求められているものは何でしょうか。

◆前田－男性が、いわゆる女性の職場へ入ることによって、良い意味で刺激になっていると思います。また、子どもが「男性」としての保育士との関わりを求める姿もたくさんありますし、保護者もまた、男性としての保育士の特性について理解を示してくれることもあります。男性保育士が、施設に居るだけで、子どもの発達や日々の変化に対応してくれるということを期待してくれているのでしょう。体力が女性とは異なることも、それはそれとしてやり甲斐になっている部分もあると思います。男性としての保育士各個人を受け入れてくれる土壌があることは、確かだと思います。

●女子児童をもつ保護者からすると、男性保育士を心配する声も時折聞かれますが、どう思いますか。

◆学生－そのことについては、正直なところ考えたことはありませんが、それを心配している保護者の方がいらっしゃることも理解はできます。それについては、それぞれの施設で対応しなければならないと思います。また、子どもと密に接し、子どもの要望を受け入れることが保育士に求められています。それには保護者の協力もまた大切であり、それを抜きにしては考えられません。そのため、安心して子どもを預けられる体制づくりが重要だと考えます。

◆前田－それぞれの施設によって対応しなければならない問題だとは思いますが、根本にあるのは、相互の信頼関係でしょう。その構築が一番大切ではないでしょうか。

●就職は、どのような保育所を希望していますか。

◆学生－自分の経験からも、また友人の経験からも、保育方針や施設の設置場所など、様々な違いがあることが分かりました。それぞれの「保育観」の違いを考慮し、自分の考えにあった保育所に就職したいと思います。

●保育に関する職場は従来女性が多いとされていますが、そのなかで変化を望むところはありますか。

◆学生－そのような環境へ就職することの覚悟はできていますが、男性である自分を、そのまま素直に受け入れてもらいたいと思います。男性としての仕事を求められる際、力仕事やアグレシッブな活動を要求されているとは思うのですが、それが嬉しいと思える反面、やや疲れる面もあります。それを考えると、自分に対して男性としての先入観を持ってもらいたくはありません。

◆前田－職場における男女コミュニケーションについては、従来の性差から考えるだけではなく、自分が接している子どもを中心とした職場観から考えてみる必要があります。仕事の核となる部分は何か。このようなことを考えてみると、さほど抵抗なく受け入れられる箇所が出てくるのではないでしょうか。また、最近特に感じていることとして、男性保育士を憧れの対象とみている子どもたちも多くなってきたということです。男性保育士を、職業として強く意識する時代へと変わってきたのでしょう。

●最後に、自治体などに望むことは何ですか。

◆前田－公務員としての雇用の確保や、保育士そのものの職責としての手当ての充実など、給与待遇などを考えてもらいたいと思います。これから保育士になろうとする若者が働ける場所の確保こそが喫緊の課題なのではないでしょうか。

◆学生－やはり、先行き不透明では不安が募るだけです。雇用についての不安を解消し、経済面の保証が十分に反映される市政であってもらいたいと思います。

【インタビューを振り返って】

男性保育士という職業を選択し、勉強中である彼らの姿勢から、職場の環境や、待遇など経済的な面での不安よりも、子どもと直接関わり成長の手助けをすることにやりがいを感じながら、それを仕事として、責任をもって行いたいという強い意志を感じました。このような彼らの考え方から、職業を性差で分け固定して考えるのではなく、ひとりひとりの人間がそれぞれ社会の一員として、男女ともに充実した仕事ができる職場が増えるように、そしてまた、これから社会に出ようとする若い人たちがチャレンジし易い社会環境や職場環境を整えて行くためにも、男女共同参画社会を推進していく必要性を感じました。

今回インタビューに答えてくださった皆さんは、男女共同参画について自然に溶け込み馴染んでいる印象がありました。これは、小さい頃からのジェンダーフリーの教育や取組みの成果の表れだと思います。そのため、男女共同参画を継続的に進める事の重要性をあらためて理解しました。

～男性看護師～ 宮城県立がんセンター

【取材を受けていただいた看護師さん】
吉野　敦さん、菊地　義弘さん、岩佐　昭仁さん

●看護師という職業を選んだ理由を教えてください。

◆吉野－中学生のときに祖父が入院した時に、手助けしたいという気持ちから理学療法士になろうと思ったのがきっかけです。人と接し、人のために仕事をしたいという思いから看護師を目指しました。

◆岩佐－私が高校のとき、親の知人に男性の看護師がいた影響から看護師を目指そうと思いました。

◆菊地－もともと医療系の仕事に興味があり、高校卒業の時に地元に看護師をしていた男性がいたことから、この職業を選びました。

●看護師になって良かったと思うことは何ですか。

◆吉野－患者さんから「ありがとう」と言ってもらえることがうれしいです。

◆岩佐－現在看護部にいるので、患者さんに安心してもらい、頼りにしてもらったとき、良かったなと思います。看護とは「チーム医療」なので、同僚に信頼されていることにもやりがいを感じています。

◆菊地－患者さんが良くなっていくことは自分のことのように嬉しく思います。また、自分の知らないことを学ぶことができ、人との出会い、人脈が広がりました。

●女性の多い職場で感じたことを教えてください。

◆吉野－あまり感じたことはありません。高校から看護学校に入ったとき、周りが女性だけだったのは驚きました。女性が仕事をすることの大変さを知っているので、家庭では自分ができる事をやっていますし、やっていかなければいけないと思っています。

◆岩佐－私の知る、女性の仕事の進め方は緻密だと思います。男性の場合、職場の移動は5年周期であるのに対し、女性の場合は出産、育休などが絡むので大変だなと思います。

◆菊地－看護師になったときから男性は少数でしたが、同じ仕事をする仲間ということで特に意識したことはありませんでした。しいて言えば、最初のころは白衣がなく、更衣室もなかったことでしょうか。

●これからの目標（今後の目標）を教えてください。

◆吉野－患者さんの心の声を聴きながら、寄り添い、役に立てる看護師になれたらと思っています。

◆岩佐－男性、女性それぞれ違う目線で患者さんを看て、良いほうに向かっていけばいいなと思っています。同僚とうまくコミュニケーションをとり、家庭生活も考えながらスキルアップも図りたいです。

◆菊地－現在、院内感染管理の仕事をしているので、病院だけでなく地域でも専門の知識を活かしてインフルエンザなどの感染予防をしていきたいと思います。

【インタビューを振り返って】

取材をとおしてわかったことは、過去に女性が男性中心の仕事に就いたときの取材と同じように、周りが気にしているよりも、はるかにその仕事を普通だと思い、楽しんでいるんだなと感じられたことです。

彼らは、人として性別に関係なく、足りないところは別の何かで補いながら、自分の進みたい道をきらきらとした笑顔と希望をもって進んでいました。

今回、とても魅力的な皆さんに取材できたことに感謝します。

～男性保育士～　名取市高舘保育所（社会福祉法人宮城福祉会）

【取材を受けていただいた保育士さん】　森　祐樹さん

●この仕事に就こうと思ったきっかけはどういったことですか。

◆幼稚園の時に先生に憧れたのがきっかけで、その時からずっと子どもに携わる仕事をしたいと思い続けてきました。

●あなたにとって、この仕事のやりがいは何ですか。

◆やる気につながる子どもたちの笑顔。「ありがとう」の言葉。子どもたちの存在がやりがいにつながっています。

●仕事をして、大変だと感じることはどのようなことですか。

◆子どもたちと遊んで過ごすだけのイメージがありましたが、実際には安全面への配慮、ケンカなどのトラブル解決など想像できていなかった責任の重さや日々の業務の忙しさがありました。そのため、一度、保育士から一般職に転職した時期もあります。しかし、離れて分かる、子どもたちの育ちに関わる保育士としての仕事の魅力を再確認し、またこの仕事に就いています。

●女性中心の職場の中で、男性として自分の役割など感じていることはありますか。

◆現在、男性職員は私１人です。複数人男性保育士がいるといいなと思うことも、もちろんあります。

しかし、保育士となるための養成校での環境も、もちろん女性中心でしたので違和感はあまりありません。ただ、仕事の中では、男性保育士として広い場所での身体を使った活動を積極的に行うようにしています。

●これから後に続く世代のみなさんへのメッセージをお願いします。

◆まだまだ男性の少ない保育士業界ですが、子どもの笑顔や仕草から癒しを得たり、仕事をすることでこんなにも逆にパワーをもらえる仕事は、他にはなかなかないと思います。ぜひ、男性の皆さんも保育士を目指してみてください！

～男性栄養士～　名取市健康福祉部保健センター

【取材を受けていただいた栄養士さん】　大内　秀文さん

●この職業を選んだ理由は何でしょうか。

◆もともと調理が好きで、高校の時に食に関わる職業に就こうと考えました。その時に母の進めで栄養士の道を歩み始めましたが、最初は調理をするイメージが強かったです。大学で学んでいく中で調理師との違いや栄養士としての仕事の奥の深さを知り、本格的に栄養士を目指すことにしました。

●仕事で苦労したことはどのようなことですか。

◆保健センターの栄養士ということで、乳幼児健診

時等の栄養相談や健診結果からのアドバイスも行っています。そうした栄養指導という部分で、相手の気持ちに寄り添い、考え、コミュニケーションを取りながら、理解してもらえるよう分かりやすく伝えていくことの難しさを感じました。市民の健康を「食」の部分で支える役割を担うという責任の重さを実感しながら、日々の業務に取り組んでいます。

●うれしいと感じたことを教えてください。

◆相談を受けた方からは、きちんと一栄養士として見てもらっていることがうれしいです。また、今まで学んできたことが、最近ようやく実践できるようになってきました。自分がアドバイスをしたことが、その方の今後にしっかりと活かされていると実感出来た時にやりがいを感じます。

●先駆者としてこれから後に続く世代のみなさんへのメッセージをお願いします。

◆広く深い分野であり、とてもやりがいのある職業だと感じています。この業界ではまだまだ男性は異色な存在かもしれませんが、専門性を磨き上げ、目標を達成するために自分の信念をしっかりと持って、どんどん進出してもらいたいと思います。

　また、男性の視点が入ることで、新しい風を吹き込むことができると確信しております。

名取市の16小中学校の父母教師会(PTA)は、毎年、各校単位PTAで、さらに市父母教師会連合会で行事を開催しています。今回は、復興の過程で、子どもたち・保護者・先生方と一緒に活動した２つの事業をご紹介します。

「　東北発★未来塾　歌声のチカラ　～オペラ歌手・森公美子～」

皆さんご存知、仙台市出身のオペラ歌手でタレントの森公美子(もり　くみこ)さんは、震災後から何度も被災地を訪れ支援をされています。震災で実家も甚大な被害を受けました。家族は無事でしたが、中学・高校時代に一緒に音楽の道を目指した友人(第一中学校教師)が津波で亡くなられました。震災後、第一中学校や市内の仮設住宅を訪れ、あの元気でパワフルな「歌声のチカラ」をとおして、悲しみであふれる心を解き放ち、元気になり前向きになれるようみなさんの背中を押してくれています。

平成26年11月30日、森さんをはじめとする一行が第一中学校を訪れました。NHK Eテレ「東北発★未来塾」という番組の収録の為です。当日は、森さんと出演者による絶妙なトークから笑いと涙に溢れた、やさしい音楽会となりました。これまで収録で度々第一中学校を訪れていましたが、その都度、皆が笑い、そして涙しました。音楽が鳴ると、どうやらこの2つはもれなく付いてくるようです。音楽会では、森さんも歌

い、学生、生徒、PTA 合唱部そして仮設団地の有志のみなさんと世代を越えたやわらかなハーモニーが奏でられました。

人はときに真摯な姿に(音楽に)ふれると、心の底に眠っていた大切なものに、気付かされることがあります。この場に集まった人たちが、その輝きを少しでも感じられたならと思わせる音楽会となりました。

〈出演者〉　森　公美子　宮城学院女子大学音楽科
宮城教育大学音楽科　愛島東部仮設団地有志
箱塚桜仮設団地有志　名取一中合唱部　PTA合唱部

「平成26年度名取市父母教師会連合会文化セミナー」

一緒に太鼓を叩くことで"元気が出る"
"隣りの人と仲良くなれる"

今年度のセミナーは、観客参加型ドラミングセッションの活動をしている「ドラムカフェジャパン」の皆さんをお招きし、ジェンベ(西アフリカの太鼓)を参加者全員で演奏し、体感しました。

ドラムカフェジャパンでは、震災直後から被災地の学校、避難所仮設住宅や病院など 300 ヶ所以上を訪問し、多くの被災者に元気と笑顔を届ける活動をしています。

平成26年11月22日(土)、名取市文化会館中ホールの会場は、熱気に溢れ、ファシリテーターのイノックさん(写真中央)のリードのもと、楽しいドラミング&ダンスセッションで大いに盛り上がりました。

▼5人のドラムセッションで
会場は大盛り上がり！

当日回収したアンケートでは、「思わずノリノリになりました」や「思ったとおりすばらしい時間を過ごせました」など、ほとんどの方が満足していると回答しており、今回の文化セミナーの盛況ぶりがうかがえる結果となりました。

この情報紙は市民で構成される委員会のみなさんが直接取材し、原稿を作成しています。
情報紙に関するご意見・ご要望、また取り上げてほしいテーマなどありましたら、下記までご連絡ください。

≪　編集と発行　≫
名取市男女共同参画推進委員会

この情報紙に関する問合わせ先・事務局
〒981－1292　男女共同・市民参画推進室
TEL 384－2111（内線 337 ）　FAX 384－9030